

大腸癌手術検体から採取した大腸癌オルガノイドおよび癌関連線維芽細胞を用いた腫瘍浸潤先進部所見における分子生物学的特性に関する研究

1. 研究の対象

2021年1月～学校長承認までに当院で大腸癌に対し手術を受けられた方

2. 研究目的・方法・期間

大腸癌において予後予測（再発などの予測）は、手術後の補助的な薬物療法（抗がん剤治療）の適応の判断や再発後の治療法（手術や薬物療法等）の選択に重要です。従来から本邦では大腸癌取扱い規約等における腫瘍の壁深達度、リンパ節転移、遠隔転移からなるStage分類が予後予測に用いられています。しかしながら、近年の薬物療法等の急速な発達などによる大腸癌治療の進歩に伴い、治療方針の決定にStage分類のみでは不十分となりつつあります。

当講座では、大腸癌の病理所見（顕微鏡検査の所見）として腫瘍内の癌細胞の小さな塊である低分化胞巣（poorly differentiated cluster: PDC）および、癌細胞間にある線維組織（癌間質）にみられる線維性癌間質反応（Desmoplastic reaction: DR）の分類が予後予測に非常に有用であることを報告してきました。これらについては、これまでに国内外から同様の結果が示されており、大腸癌の予後と強く関連していることが示されていますが、これらの病理所見が生じる仕組みについて十分には明らかになっていません。

本研究では、手術で切除した患者さんの標本から癌細胞や癌間質細胞を採取して大腸癌オルガノイド（生体内と同様の性質を維持する様に培養したもの）や癌関連線維芽細胞を培養することで、予後が悪いと予測される病理所見を示す腫瘍に特有の因子（たんぱく質や遺伝子）がないか調べることを目的としています。この研究により大腸癌の悪性度や治療抵抗性と関連する因子が発見できた場合には、これに対する治療法の開発につながることを期待できます。本研究では、研究のために新たに検査や投薬をすることはありません。

研究期間は、学校長の承認後から令和8年12月31日までを予定しております。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料：大腸癌の切除検体の凍結検体および培養保存した大腸癌オルガノイド、癌関連線維芽細胞

情報：治療日、性別、治療時年齢、治療法、血液検査所見、病理検査所見、内視鏡所見、画像検査所見、再発・予後、等

4. 研究に用いる試料・情報の管理者

試料・情報の利用については、研究用の ID 番号を作成し、直ぐには個人を特定できないように加工したもの（仮名加工情報）を作成します。作成時の情報については外科学講座 梶原由規が厳重に管理します。また、加工後の情報についても、この研究に参加する研究者のみで利用します。

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒359-8513 埼玉県所沢市並木 3-2

防衛医科大学校 外科学講座 梶原由規

電話：04-2995-1211（内線 2356）（対応時間：平日 9 時から 16 時） FAX：04-2996-5205

研究責任者：外科学講座 教授 上野秀樹